

本資料集の使い方

○本資料集のねらい

本資料集は、これから観光地域づくりに取り組む地域、または現在、既に観光地域づくりに積極的に取り組んでいる地域において、各種ハード・ソフトの取組をより効果的に相互連携させるための考え方の一助となることを目的としています。

これから観光地域づくりに取り組む地域においては、観光地域づくりのための取組を立案・実施し、効果的に連携させるためのヒント集としてご活用いただけます。

また、現在既に観光地域づくりに積極的に取り組んでいる地域においては、実施している取組が観光地域づくりのどの部分に位置づけられるかを確認し、さらなる効果的な取組の展開と連携の方向性を確認するための資料としてご活用頂けます。

○対象とする読者

本資料集は、以下のような方を主な読者として想定し、作成しています。

- ①市町村の観光関連部署で施策の立案や実施を担う行政職員
- ②観光地域づくりを担う観光協会やまちづくり組織といった観光推進組織の事業企画・実施担当者
- ③観光地域づくりを担う民間事業者の事業企画・実施担当者

○本資料集の構成

本資料集は「Ⅰ.本編」と「Ⅱ.事例編」の2部構成となっています。

「Ⅰ.本編」では、観光地域づくり推進のための取組の考え方や、取り組むに当たってのヒントがまとめられています。

「1.魅力ある観光地域づくり推進のための主な取組の連携図」では、観光地域づくりのために実施することが望ましい主な取組の全体像とその連携を示しています。この連携図を、自らの地域と照らし合わせることで、観光地域づくりに必要な取組を把握できるようになっています。

「2.観光地の資源特性に応じた効果的取組の把握」では、観光地の資源特性から、連携図でとりあげた各取組について、優先的に実施することが望ましい取組、基本的に実施することが望ましい取組、配慮することが望ましい取組に分類することで、自らの観光地がどの取組を実施したら効果的なのかを示しています。

「3.魅力ある観光地域づくり推進のための主な取組の考え方」では、連携図に記載のある個別の取組について、目的や手法、取組推進・障害打開のポイント、期待される効果など、立案、実施に当たってのヒントとなる事項を解説しています。

「4.魅力ある観光地地域づくり推進のための効果的な取組連携の考え方」では、連携することで特に相乗効果が期待できる取組について、その連携方法の考え方を解説しています。

「Ⅱ.事例編」では、観光地域づくりに取り組んでいる、もしくはこれから取り組もうとしている市町村が参考とできるよう、「観光地域づくり実践プラン」、「地域いきいき観光まちづくり100」に選定された地域の中から、観光地域づくりに先進的に取り組む16地域を成功事例として抽出し、それぞれの地域でこれまで実施されてきた主な取組を「取組みフロー図」として整理しています。

これら個別の地域の取組を「Ⅰ.本編」と併せて参照することにより、各種取組の実施や連携の状況が具体的に把握できるようになっています。

○本資料集の活用方法

<活用方法その1>

ステップ①

「1.魅力ある観光地域づくり推進のための主な取組の連携図」(P5)において、自らの地域が、どの取組を実施していて、実施していないか、個々の取組の連携はどのようになっているのか、をチェックしていきます。

その際に、個々の取組の内容については、「3.魅力ある観光地域づくり推進のための主な取組の考え方」(P13)を、取組の連携については、「4.魅力ある観光地域づくり推進のための効果的な取組連携の考え方」(P65)を参考にしながら確認していきます。

ステップ②

チェックできた取組（自らの地域において既に実施している取組）とチェックできなかった取組（自らの地域においてまだ実施していない取組）に分けて考えます。

→チェックできた取組（自らの地域において既に実施している取組）について

- ・「3.魅力ある観光地域づくり推進のための主な取組の考え方」の内容が反映されているかどうか、
 - ・連携図と照らし合わせ、それぞれの取組が効果的に連携しているかどうか、
 - ・その他に連携させた方が良い取組はないのかどうか、
- を「4.魅力ある観光地域づくり推進のための効果的な取組連携の考え方」を参考に確認します。

→チェックできなかった取組（自らの地域においてまだ実施していない取組）について

- ・「3.魅力ある観光地域づくり推進のための主な取組の考え方」の内容及び地域が発見・創出したコンセプトから判断して必要な取組なのかどうか、
 - ・必要であれば、「4.魅力ある観光地域づくり推進のための効果的な取組連携の考え方」を参考に、既に実施している取組との連携はどのようになるのか、
- を確認します。

これらの事項を確認し、自らの地域に即した取組の連携図を作り上げます。

ステップ③

「2.観光地の資源特性に応じた効果的取組の把握」(P9)を参考にしながら、自らの地域の観光資源の特性上、どの取組からスタートするべきかを判断していきます。

このような手順で本書を活用することで、各種ハード・ソフトの取組を効果的に連携させ魅力ある観光地づくりを推進していくことができます。

<活用方法その2>

また、本書の特徴として、「1.魅力ある観光地域づくり推進のための主な取組の連携図」(P5)から読み進められるだけでなく、地域の皆様が実施しようとしている(興味のある)個々の取組から連携図に戻ることができるようになっています。連携図において、実施しようとしている取組がどの部分に当てはまり、どの取組と連携させると効果があるのかを確認することができます。

＜留意事項＞

※基本的には全ての観光地で必要な取組を記載していますが、自らの地域にとって必要な取組かどうかを判断する基準は、**あくまで地域が発見・創出したコンセプト（どのような地域にしたいのかを具体的に表現したもの）を基準に判断することが重要です。**コンセプトがまだ発見できていない、また、あいまいになっている地域があれば、まずコンセプトの創出・発見から取り組む必要があります。

※本資料集は、観光地域づくりに必要となる基本的な取組や連携手法を示したものです。そのため、各地域の実情によっては、本資料集で示したモデルから外れていく場合も考えられます。しかし、その場合においても、地域における取組や連携手法が地域のコンセプトに合致しているものならば、魅力ある観光地域とすることができるケースも十分に考えられます（失敗を恐れずに実際に実践していく過程において、地域に合ったやり方を見いだしていくことが重要です）。

※自らの地域の連携図と「Ⅱ.事例編」で紹介している先進的に取り組む地域のフロー図を照らし合わせることで、より具体的な連携イメージを把握することが可能です。

また、連携図に記載のある取組ごとに、その特徴が典型的に表れているフロー図を選定（事例編の活用方法（P73）参照）してありますので、個別の取組についても、具体的に把握することができます。

※本資料集には、観光地域づくりを進める際の各取組のポイントが記載されていますが、本資料集と併せて（本資料集をきっかけとして）、さらに詳細な情報を他の資料（地域いきいき観光まちづくり 100 等）から入手することで、さらに知識を深めることができます。

※本資料集の内容は、現時点において想定できる事項を記載したものとなっています。しかし、観光地域づくりの手法や考え方は、日々変化していくものであるため、地域の皆様が、観光地域づくりに取り組まれる中で獲得していく、様々な知識や経験を本資料集にフィードバックすることにより、最新かつ独自の内容としていくことが重要です。